

高知市旧山内家 下屋敷長屋展示館



高知市



展示館のご案内

休館日 年中無休

※展示品の整理のために臨時に休館することがあります。

開館時間 午前7時～午後5時

入館料 無料

所在地 高知市鷹匠町1丁目3番35号

お問合せ ● 高知市民権・文化財課

〒781-8010 高知市棧橋通4丁目14-3 TEL(088)832-7277



●「夕顔丸」などの和船模型を展示(二階展示室)

和船

製作・浜口道春

下田は四万十川の川口にあり、私が生まれ育った大正、昭和初期の頃には、炭や木材の集散港として栄え、たくさんの中洋船が入り込んでいました。親父が船乗りでよく船のおもちゃを作ってくれたことや、生家のすぐ下が造船所であったことなどで、船に対して強い愛着を持ちながら大きくなりました。

現在の民具製作を始めた昭和三十五年頃から、暇をみつけては船の模型作りをするようになりました。

特に和船の持つ美しさにひかれ、より正確に体系だてて作ろうと研究するうちに、試行錯誤の末、古い船の絵を見て設計を起こすことができるようになりました。独学でまわり道も多かったのですが、友人の船大工の助言や幼い日の記憶をたよりにコツコツと作り続けています。歴史の彼方に消えていった和船の勇姿を数多く残したいと思っています。

〈浜口氏の談話より〉

重要文化財 旧山内家下屋敷長屋について

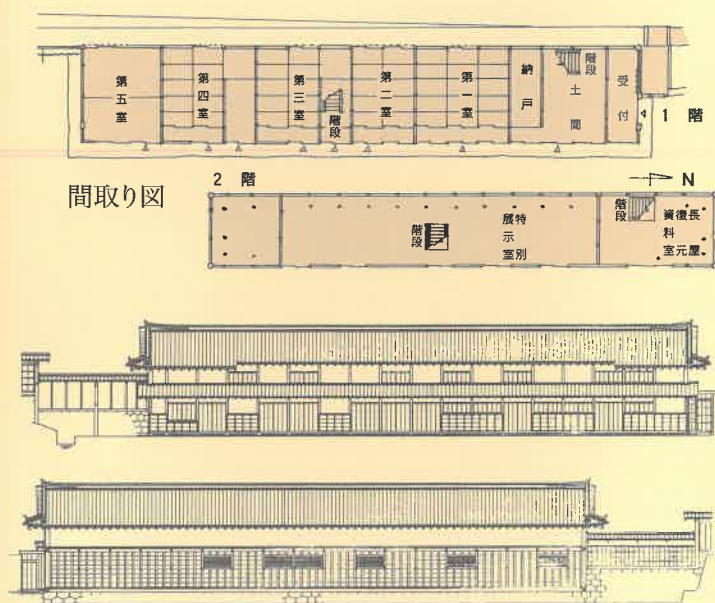
この長屋の建つ敷地は、幕末に家臣七人の屋敷地を召し上げて前藩主 山内容堂の下屋敷が設けられたところです。長屋についての記録はありませんが、その時建てられたものと思われます。下屋敷の敷地はもと鏡川沿いの荒地でもあったところから、付近に散田の地名が残り、下屋敷は散田邸ともよばれていました。慶応三（一八六七）年、薩摩藩主・島津久光の使者として訪れた西郷隆盛をはじめ、長州の使者・岡儀衛門、幕府の外国奉行・平山公敬など、諸藩からの使者や要職との面談がこの地で度々行われ、幕末の土佐藩において、政治交渉の場として重要な位置を占めていました。城からやや離れた立地が、公的な場である城との使い分けにも便利だったものと思われます。明治四（一八七一）年、高知城および城内の本邸を廃し、下屋敷は北面にも下屋敷・通用門が建立されて拡張整備され、山内家私邸となりました。第二次世界大戦後、その大部分は株三翠園（当時は土佐観光株式会社）の所有となりました。かつては主屋の一部が残っていましたが、火災で焼失しました。白蟻や地震・台風被害も相まって、長屋は倒壊が懸念され、一時は県外への移転も検討されましたが、高知城と共に現地で保存されることになりました。



昭和五十三（一九七八）年七月に長屋（建物）は高知市に譲渡され、同五十四年、国指定重要文化財となり、同五十五年には解体修理工事が行われ、同五十六年九月に完成しました。

長屋は旧屋敷地の西端にあつて道路に面し、桁行十七間半、梁間二間半で南北に長く、二階建、入母屋造で、東西に庇を付け、屋根は棧瓦葺です。一階は七区画にわけられ、それぞれ異なった間取りをもっており、四部屋は畳敷でその他は板敷と土間です。二階は三部屋にわけられており、いずれも板張りです。また、一階への昇り口は二箇所あります。

もとは屋敷に仕える警固番役の足軽らが居住したといわれており、かつての間取りをうかがうことができます。この長屋は後世何回か用途が変わったこともあつて大きく改造されていましたが、当初の柱や梁が良く残っていたため、昭和五十三年（五十六年）の調査・解体修理で当初の形がわかり、復原されました。このような大名の下屋敷の長屋は全国的に少なく、貴重な遺構です。



東立面図 (上) ・ 西立面図 (下)

展示品について

階下

第一室…山水図屏風は、藩主とも

関係の深かった幕末江戸の画家、春木南溟の作品。



第一室

第二～五室…藩政後期、下層武士や

庶民の生活の道具類を展示しています。



第五室

階上

長屋復元資料室…この長屋建築に関する各種資料を展示しております。

特別展示室…坂本龍馬の「船中八策」が練られた船として知られる土佐藩船「夕顔丸」などの和船模型を展示しています。

絵巻物…『高知下町浦戸湾風俗絵巻』（複製）。藩政後期の風俗絵巻として興味深いものです。（原図は高知市立市民図書館に所蔵）

*展示品は、この長屋とは直接関係ありません。門前長屋としての建物自体をみていただくためにつとめて品数を少なくしています。展示品は変更する場合があります。